

平成 30 年度アンチ・ドーピング研修会報告

報告者：齋藤武

7月7日（土）に八戸市において、県薬主催で初めてとなる表記研修会が開催されました。一般講演は大塚製薬大塚製薬(株)仙台支店NC事業部堀直也様に近年話題となっている「熱中症」について講演賜りました。一昔前までは「熱射病」とひとくくりにされていましたが、近年では「熱失神」「熱痙攣」「熱疲労」「熱射病」と細かく分けられており、早い段階での対処が必要である。また、水分の補給としては体液が減った場合に、水だけを摂取すると、体液が薄められるので、後々体液濃度を元に戻すため水分が外に出てしまう。その結果再度水分不足となる。そのため、ある程度塩分（Na）と糖分を含んだ水分（ポカリスエット等）を摂取する必要がある等、基礎的なことから実践的なことまでご講演いただきました。

特別講演では一般社団法人岩手県薬剤師会常務理事の本田昭二先生にご講演いただきました。本田先生は日薬アンチ・ドーピング委員会の委員もされております。岩手国体での岩手県薬剤師会の活動報告やドーピングの基礎的知識、検査方法などを説明いただいた後に、平成 29 年の日本国内での違反事例や薬剤師が求められている役割など詳しく説明していただきました。日本国内でのドーピング違反事例はうっかりドーピングが多くあり、それはアスリートの知識や意識が不足しているという事もあります。サポート体制の不備や、医療者、指導者の知識不足も原因である。アスリートは様々な専門家に支えてもらいながら競技を行っている。その専門家同士の連携体制強化は必須であり、その連携強化をしていくためには相互の理解が大切であるという事も学びました。青森県の国体に向けての強化対策委員会やその中の医科学ネットワーク専門委員会や体育協会としっかり連携をとり相互に情報を交換しながら今後活動をしていることが必要と感じました。また今回企画から当日の受付等を担当していただいた八戸の先生方には大変感謝しております。八戸市では屋内スケート場が完成すると国内外の主要な大会が開催されるため、スポーツファーマシスト以外の先生にもアンチ・ドーピングの意識を持ってもらう必要があるということで、このような内容を企画していただきました。今後アンチ・ドーピング委員会としても有用な情報を会員に提供していかなくてはならないと考えております。



特別講演講師の本田昭二先生



座長の川村仁常務理事